

先日は、2月のてがたんにご参加いただき、ありがとうございました。てがたんの観察記録のレポートを作成しましたので、ご覧ください。次回のとがたんは、3月14日(土)で、「鳥帰る」がテーマです。ぜひご参加ください。

* 市民スタッフの方へ 次回のとがたん下見は、3月7日(日)の9:30からです。

2月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→香取神社の下→水神山古墳の下→藤棚→水生植物園→手賀沼遊歩道→けやき広場
- 観察日時と天気：2020年2月8日(土) 10:00～12:00 晴れ
- 参加人数：25人(大人17人、中学生以下8人)
- 市民スタッフ：5人(湯瀬一栄、伊東茂子、木村稔、弘實さと子、北村章子) ※太字は案内人
- 鳥博友の会ボランティア：2人(古澤紀元、倉重力也)
- 鳥博職員：1人(岩本二郎)

観察した生き物の記録(下見を含む)

【鳥類】

カモ科：オナガガモ、コガモ、マガモ、カルガモ／カイツブリ科：カンムリカイツブリ／ハト科：キジバト／ウ科：カワウ／サギ科：アオサギ、ダイサギ、コサギ／クイナ科：オオバン／シギ科：タシギ／ミサゴ科：ミサゴ／タカ科：トビ／カワセミ科：カワセミ／モズ科：モズ／カラス科：ハシボソガラス、ハシブトガラス／シジュウカラ科：シジュウカラ／ウグイス科：ウグイス*／ヒヨドリ科：ヒヨドリ／エナガ科：エナガ*／メジロ科：メジロ／ムクドリ科：ムクドリ／ヒタキ科：ツグミ／スズメ科：スズメ／セキレイ科：ハクセキレイ／ホオジロ科：ホオジロ、カシラダカ、アオジ、オオジュリン

(外来種や家禽) カモ科：コブハクチョウ／ハト科：ドバト

【昆虫】

バッタ目：ツチイナゴ、クビキリギス／チョウ目：ムラサキツバメ／コウチュウ目：ナナホシテントウ／ハエ目：ヒラタアブのなかま*

【甲殻類】 サワガニ

【貝類】 チリメンカワニナ

【植物】

(草の花) ヒガンバナ科：スイセン／キンポウゲ科：タガラシ／スミレ科：スミレのなかま／アブラナ科：ナズナ、タネツケバナ／オオバコ科：オオイヌノフグリ／シソ科：ホトケノザヒメオドリコソウ／サギゴケ科：トキワハゼ／キク科：ハキダメギク、チチコグサモドキオオジシバリ、ハハコグサ、ノボロギク、オニノゲシ、ノゲシ、オニタビラコ

(木の花) バラ科：ウメ／ツバキ科：ヤブツバキ、カンツバキ

(草の実) アカネ科：ヘクソカズラ

(木の実) マツ科：クロマツ／バラ科：ノイバラ／ウリ科：カラスウリ

(注) *印は2月2日の下見の時にのみ確認した種

2月の観察アルバム

今回のてがたんのテーマは「暮らしの役に立つ草」でした。博物館周辺で、春の七草のような食べられるものや、仏前に供えられるもの、飾りとして使われるもの等、さまざまな形で暮らしと関わりをもつ植物を探しました。そして、普段は気付かない道端の植物にも、たくさんの興味深い話が隠されていることを知りました。2月上旬は1年で最も寒く、生きものの数が少ない時期ですが、天気にも恵まれたおかげで、植物以外にも、鳥や越冬する昆虫など、たくさんの生きものを観察することができました。



湯瀬一栄さん



案内人

伊東茂子さん



① ノビルは、葉も根本のふくらんだ部分（鱗茎）も食べることができます。



② くさむらの中で越冬していたツチイナゴ。



③ 春の七草として、食用になるナズナ。



④ 日光浴をしていたムラサキツバメのオス。



歩いたルートと観察した生き物



⑤ 小川のほとりに生えていた、食用になるタネツケバナ。



⑥ 春の七草の一つ、ハハコグサの花。



⑦ ケヤキの木にとまっていたカシラダカ。



⑧ 杭の上で捕まえた魚を食べるミサゴ。

今月の鳥 メジロ

スズメ目メジロ科

スズメより小さい鳥で、シジュウカラ、ヤマガラ、エナガ、コゲラ等と混群を形成します。日本国内では北海道から沖縄まで広く見られる一方で、世界的に見ると、分布域はアジア東部に限られています。主に森林に生息しますが、公園や庭などの身近な場所にも飛来します。昆虫や果実を食べる他、花の蜜も好みます。冬には、まだ寒い時期に開花するツバキやウメの蜜を、メジロが吸う様子をよく見ることができます。メジロが花から蜜を吸うことによって、おしべについていた花粉がめしべへと届けられます。そして、ツバキ油の原料になるツバキの種子や、梅干し・梅酒の原料になるウメの果実が実ります。冬は花粉の運び屋となる昆虫が少ないため、蜜を好む鳥たちは、植物にとって欠かせないパートナーです。



ウメの花の蜜を吸うメジロ。

てがたんにご参加ありがとうございました。次回もお待ちしております。